

第 39 回榎野川河口域・干潟自然再生協議会会議概要

1 日 時

令和 8 年 2 月 28 日(土) 9:30~11:30

2 場 所

山口大学常盤キャンパス D 講義棟 D23 教室(宇部市常盤台 2 丁目 16-1)

※オンラインとのハイブリッド開催

3 主 催

榎野川河口域・干潟自然再生協議会

4 出席者

23 名(現地委員 16 名、ウェブ委員 5 名、委員外 2 名)

5 内 容

(1) 開会挨拶要旨 ~朝位会長~

- ・本協議会は、2004 年度(平成 16 年度)から数えて 22 年目、協議会の会議の開催は通算 39 回目となった。
- ・第 11 期委員の任期が 3 月末で満了するため、引き続き、第 12 期委員への継続をお願いする。
- ・協議会会議閉会后、あいおいニッセイ同和損保(株)による寄付金贈呈式を開催するため、出席をお願いする。
- ・限られた時間ではあるが、皆様の活発な意見交換を期待している。

(2) 議事等

ア 2025 年度活動概要 ~資料 1:事務局~

- ・2025 年度の榎野川河口域・干潟自然再生協議会の活動状況の概要を説明した。
- ・春の干潟再生活動では 143 名に参加いただき、潮干狩り体験やアサリ保護の網袋を設置した。また、今年度新たな取組として、秋にふしの干潟ファンクラブを対象とした活動を行った。
- ・カブトガニWGによるカブトガニ幼生生息調査について、9 月 6 日に行った長浜での調査では、近年の猛暑により、熱中症患者が出た。今後安全に参加できるような持続可能な取組にしていくため、次第Ⅲの意見交換で意見を伺う。
- ・ブルーカーボンWGでは、アマモの花枝採取とアマモ観察会(花枝設置)を行い、取材対応も行った。本日の寄付金贈呈式後にブルーカーボンWG会議を行う。

イ 活動報告・調査研究 ~資料 2~

(ア) 令和 7 年度ブルーカーボンWGの取り組み報告

~山口大学大学院 創成科学研究科 教授 山本 浩一~

- ・被覆網によるブルーカーボン貯留効果の検証とアマモ再生活動を実施し、取材対応も行った。
- ・アマモ再生活動では、4 月と 5 月に秋穂二島岩屋地先のアマモ群落の先端部で、花枝の採集・設置(下種更新法)を実施した。
- ・下種更新法を行ったエリアは、対照エリアに比べ、3.9 倍の実生密度を確認したが、データ数が少ないので、今後 BCWG の協力を得ながら、データ収集していく。
- ・アサリ保護活動に使っている被覆網に付着した、ブルーカーボン貯留量の推定方法を確立した。→南潟での CO₂ 貯留量は 0.025t-CO₂ であり、J ブルークレジット申請には被覆網の数をさらに 4 倍にする必要がある。
- ・本日の寄付金贈呈式の後に今年度第一回ブルーカーボンWGを開催する。

(イ) 網袋方式を用いた南潟のアサリ保護・育成の実績について

～山口県環境保健センター 環境科学部 専門研究員 元永 直耕～

- ・山口湾の里海再生に向けて、「生物多様性の確保」と「多様な主体の連携」を軸に榎野川河口干潟再生活動を行っている。
- ・生物多様性の指標生物であるアサリの保護活動として、被覆網の設置を行っていたが、被覆網の管理による負担が増えていたため、近年では、網袋を活用してアサリ稚貝を確保し、少数の被覆網下へ放流する活動を行っている。
- ・R7. 4. 26 に行った春の活動では、143 名が参加し、潮干狩り、網袋設置・撤去、アサリ放流を実施し、12kg のアサリを収穫し配布した。
- ・R7. 11. 3 に行った秋の活動では、ファンクラブを対象としたイベントとし、26 名の参加で、12. 4kg のアサリを放流した。
- ・他にも、年に 4 回の定期モニタリングを実施し、被覆網設置の効果や、アサリ稚貝の放流時期等の比較検証を行った。→網袋を活用した活動により、アサリの個体密度が 10 倍に増えた。(必要な被覆網量が 1/10 になった。)
- ・使えなくなった被覆網の処分・再利用方法や、活動参加者を増やすための方法が今後の課題となっている。

【主な質疑等】

ブルーカーボン WG による、被覆網の活用方針と、干潟自然再生活動による、被覆網削減方針が対照的であるが、効率的な方法は検討しているのか。

→ 使用済み網を藻の付着基盤として再利用する案もあるが、マイクロプラスチックの問題も考慮し、素材変更なども含め検討が必要である。

ウ 2026 年度の活動について ～資料 3：事務局～

- ・年間活動計画及び 2026 年 5 月 2 日（土）に実施予定の榎野川河口干潟再生活動 2026 の実施概要を説明した。
- ・寄附付き商品の数等、皆様の意見があれば事務局へお願いします。

(3) 意見交換

ア カブトガニ幼生生息調査の見直しについて ～資料 4：カブトガニ WG～

- ・2006 年から続く市民参加型の貴重な調査だが、長浜での調査中に熱中症による救急搬送が 1 名発生し、近年の酷暑により調査実施のリスクが高まっていることを踏まえ、今後の調査方法として、カブトガニ WG から以下の提案があった。

【提案】

- ・開催時期：9 月中旬以降～10 月上旬に変更。熱中症警戒アラート発令時は中止。
- ・調査場所：一般参加者向け調査は、階段があり、護岸に避難しやすい「南潟」に変更し、初心者向けの体験コースを設置。従来の「長浜」での調査は関係者のみで実施する。
- ・土地利用：長浜の調査でゴール地点の駐車場が私有地であり、将来的に使用不可になる可能性があるため、スタート地点に戻る往復方式などを検討。

【委員意見】

- ・開催時期：提案内容で委員の合意が得られた。
- ・調査場所：一般参加者向けの調査は「南潟」に変更し、「長浜」での調査は関係者のみで実施することについて、委員の合意が得られた。
「長浜」の調査方法については、現場検証など、今後も検討を続ける。
- ・土地利用：該当場所の使用不可について、委員の合意が得られた。

イ 榎野川河口域・干潟自然再生協議会の広報について

20年間の活動をまとめたアーカイブ資料の作成や、情報が一元化された協議会独自のウェブサイト構築をすべきとの提案があった。

(4) 第12期協議会委員の募集 ～資料5：事務局～

- ・第11期委員の任期満了に伴い、第12期委員を3月中に募集開始予定である。
- ・現委員には引き続き、第12期への継続と委員募集の広報を依頼する。

※閉会后、11:30 から同所で「あいおいニッセイ同和損害保険株式会社から榎野川河口域・干潟自然再生協議会への寄付金贈呈式」を行った。